

## 市場の活性化を考える会（第3回）における主な意見の概要 （令和元年11月29日）

### 【第10次東京都卸売市場整備計画における主な取組について】

- それぞれの市場が個別に経営戦略を描くと、部分最適的なこと、重複投資を誘発するようなことが起きかねない。全体として11の市場をどのように位置づけ、どのようにポジショニングするのかということとセットで検討していく必要がある。
- 各市場における経営戦略の策定に当たっては、個々の市場の特徴とともに、都内各市場、さらには首都圏における市場間相互の関係なども踏まえて、検討していくべき。
- 経営計画の議論においても、市場内外の環境を捉えて策定した経営戦略を踏まえ、各市場の機能や特徴に応じた市場活性化をしっかりと検討するべき。
- 東京都の11の中央卸売市場を首都圏市場と考えたときに、東京の中に維持していく必要はない市場、新たな形で活用していく市場等、市場の位置づけの見直しを広域ネットワークという観点からも検討するべき。
- 市場内に新たなプレイヤーをどうやって入れていくか。あるいは退出という議論もある。経営戦略に対して前向きな企業が多いのか、あるいは逆なのか、その辺の見極めによってプレイヤーをどう変えていくか、体質の話も含めて検討すべき。

### 【委員プレゼンテーション「畜産生産・流通の現状と課題」】

- 畜産生産現場における技術革新の状況や、安全・安心対策に向けた設備投資の現状、環境規制等への対応などについて報告。
- 卸売市場と産地との連携の重要性や、商物分離を活かした物流の効率化などについて提言。

### 【委員プレゼンテーション「わが国とEU主要国の青果物流通の現状－卸売市場を中心に－」】

- フランス、オランダ及びスペインの卸売市場の現状、特にスペインでは、伝統的食品小売業の存在を背景に、公的セクターにより運営されている卸売市場で活発な取引が行われている現状について報告。
- 卸売市場における公的セクター関与の必要性や卸売市場を核として加工業や冷蔵業などを周辺に配置する食品産業クラスターを形成することが卸売市場の発展に寄与していることなどについて報告。

### 【委員からの主な意見】

- 市場の役割は、産地や消費構造に影響を受けるものであり、スペインのように、生鮮食料品等を中心とした食の多様性が重視され、かつ中小小売業者が活躍する国では、当然に中間流通の拡充が求められ、卸売市場制度が重要な役割を果たしているということは、都の卸売市場の活性化を考えるうえで重要な示唆だ。
- 国の農産物の生産構造、農業の位置づけと小売の集中度との兼ね合いで卸売市場の役割が決まってくるし、逆に卸売市場が果たしている役割があるから小売の機能、役割も変わってくるし、決まってくる、という点に納得。
- スペインにおいて、食品産業クラスターを構築していることは興味深い。反面、逆に全てを東京に集めてしまうと、地方はどうなるのかという視点もある。都心部の市場と地方とをつなぐ考え方も重要。都の市場については、産地市場と連携を図ることにより、消費者ニーズへの対応と物流の効率化に貢献できるのではないかな。
- スペインの事例で同感なのが収入の多元化。例えば、日本でも卸売市場のゲートで入場料をとるなど収入を多面化することは大事で、これは機能の多面化とつながる。卸売市場において、様々な方策による収入の多元化は、卸売市場の安定的な運営の確保を考えていくうえで参考となる。
- スペインの卸売市場は、世界各都市でコンサル事業を手がけているとのことだが、東京都の卸売市場のノウハウを海外にコンサルティングしていくというのは興味深いビジネス。